

## 令和7年度 学校運営評価外部委員会 議事概要

日時：令和7年3月17日（火）14時00分～16時00分

場所：よこはま看護専門学校 分館101教室

出席者：委員9名、校長、副校長、看護科長、教務

### 1. 校長あいさつ

日頃の支援協力への御礼、現在、学校が抱える課題等（入学者確保等）への活発な意見交換を依頼  
委員及び職員紹介、議長選出

今期委員の初回会議であるので、委員、職員紹介ののち、議長選出。

### 2. 議事

#### ○「2025（令和7）年度 学校評価報告書」について

学校より学校概要や教育理念について説明後、2025（令和7）年度学校評価報告書に基づいて項目ごと  
学校担当者から報告を行い、委員間での意見交換を実施した。

各項目で挙げられた報告概要及び意見交換内容は以下のとおり。

#### 1) 教育活動

##### 【報告概要】

- ・講義や臨地実習でICT化（Google workspace、よこ看ポータル）を進め、学習環境を整えた。
- ・生成AIを使用する学生の増加に対し、生成AI利用ガイドラインを作成し、生成AIを活用しながら学びが深められるように取り組んでいる。
- ・学力の個人差が拡大し、自ら学びを深めていくことに課題がある。既知の学習が活用できず、思考が苦手な傾向もみられている。
- ・臨地実習については、実習目標を達成できない学生も増えており、教員間の連携を強化している。
- ・今年度から実習記録の電子入力も可能になっているが、活用方法に関するリスクもある。生成AIと同様に情報リテラシー教育の強化が必要と考えている。

##### 【意見交換内容】

#### ● 教科書について

Q. 教科書が難解、情報過多で学習のポイントが見えにくい点がある。

A. 学校としても、網羅的である一方、難読さがあることは理解しているが、看護師国家試験との整合性があり使用している。補助教材の活用も検討が必要と考える。

#### ● AI活用について

Q. AI活用ガイドラインはどのように活用されているのか。

A. 実習における個人情報漏洩、レポート作成等の盗作や剽窃にあたる行為を禁止している。使用については一定程度の判別は可能である。

#### ● 学力について

Q. 学力の問題は入学時点から存在するか、学習経過で増えているかなど、どこに問題があると考えているか。

A. いくつかの受験方法を提示しており、高校卒業から社会人の学生が受験している。特に一般入試では、国語と面接が試験科目としており、受験時のみですべてを判断することは難しい状況がある。また、入学試験合格後に学習習慣が途絶える学生も存在していると考えます。

#### ● 学生の強みについて

Q. 学生に課題がある一方で強みについてはどう考えているか。

A. プレゼンテーションや資料作り能力は高く、素直な学生が多い。

#### ● 教員配置について

Q. 臨地実習で複数の教員配置を検討しているとあるが、領域や学年などの範囲は考えているか。

A. すべての実習において2人以上の配置を考えている。教員も担当授業で病院を抜けることがある。また、トラブル発生時や学生の指導の方向性なども教員間で相談できるようにしていきたい。

- 学生の入学動機、出席状況について

Q. 自ら学びを深めるのが難しいとあるが、入学動機（なりたい、家族に言われて）としてはどちらが多いのか。また、実習での体調不良が多いとあるが、座学での出席率はどうか。

A. はっきりと調査はできていないが、入学動機については人のためになりたいと考える学生が多い。また、小さい頃から医療と関わっている学生が多い。誰かに勧められて入学する学生も一定数存在しており、その学生はやはり休学や退学につながりやすい。

講義についても休む学生もいるが、評価に関連する出席数は座学も実習も変わらないため、出席はしている。実習については、途中で休みをいれないと実習を続けられない学生もいるが、実習中には学内日があり、実習を休む学生でも学内日は出席しているところもある。気力なのか体力なのか、コミュニケーションが苦手か、その両方か、このあたりが課題に感じている。

- 学ぶ姿勢と実習病院のフォローについて

自ら学ぶこと自体は就職してからも課題と感じている。学び方を知らない新入職員と学び方をまず学ぶというところを職場でも行っている。また、以前に授業に参加した際、実習で見る学生と学内の学生では姿が違っていた。実習において学生はとても高い緊張感の中にいることを感じ、病院でもサポートしていきたい。

- 高等学校の教育環境について

現在、高等学校では怒らず、のびのび生活させる環境になっている。しかし、入学すると突然環境が変化し、適応できない状況があると考え。この環境変化の橋渡しが、専門学校には求められているのではないか。

## 2) 学校運営

### 【報告概要】

- ・専任教員ラダーを作成し、目標管理を行う取り組みを開始した。研修会や学会への参加も増加している。
- ・学生の学力低下、看護職に就く意識を持つ学生の減少、コミュニケーション能力の低下などが課題として考えられる。
- ・本校における教育の充実・改善を図ることを目的にプレテストを行った中では、人間性や倫理観に基づいた看護を丁寧に実践できている一方、主体性や臨床判断の質保証、自己開示に課題があることが明らかになった。
- ・テレワークや拡大時差出勤、班体制や朝夕ミーティングで業務調整を行い業務削減に取り組んでいる。

### 【意見交換内容】

- 授業評価の記名に変更した点

Q. 授業評価を記名にした理由はなにか。

A. 無記名の時は特定教員へ誹謗中傷、事実を確認しないまま他者の言葉を使うなどがあった。自分の意見や考えに責任をもってもらうために変更した。

- 自己点検の学修成果について

Q. 自己点検・自己評価の中で学修成果が上昇した背景は何かあるか。

A. Google workspace を活用したことで学生の学びの共有が円滑になった。教員も授業に活用することが成果に結びついたと考える。

- 教育課程アンケートについて

Q. 49 回生教育課程アンケートの平均点 3.7 は高いと思うが、他校と比較などはしているのか。

A. 発表や他校との比較はしていない。

- 教員の能力向上について

Q. 教員の能力向上についてどのように考えているか。学会発表などは具体的にどのようなことを発表しているのか。

A. 技術演習の際に、教育用クラウドを活用し、経験したことをタイムリーにアセスメントし、患者にあわせた看護を修正して実践するという演習と座学を一体にした授業形態について発表した。

他に、解剖生理学では、専任教員が一部授業を担当して、学んだ解剖生理を日常生活援助につなげられる授業展開を行った。そのことを発表した。

- 情報管理について

専門職としての情報の管理については、日々学校で伝え、無責任な情報活用ではなく、自分の意見として発信する責任などプロとして意識付けをしてほしい。

### 3) 学生支援

#### 【報告概要】

- ・ 学生が主体的に学ぶための支援や心身ともに健全な学生の育成を目指した。
- ・ 合理的配慮の提供は、今年度は規定を定めたうえで対応の流れにそって稼働し始めた。
- ・ カウンセリングも活用しやすい時間帯を検討し実施している。

#### 【意見交換内容】

- 学習習慣について

Q. 学習習慣を身に着けるためには、学生の学習意欲を生み出すことが大切と考える。しかし、外側から教員が学生に学習させるようにすることも重要なのではないか。

A. すべて学生に任せきりにはせず、学習してきたことが生かされる学習場面など仕組みづくりが必要と考える。また、国家試験対策でも実習室を活用し、頭で考えるだけでなく、体験の中で学ぶ工夫を行い効果的であったと考える。

- 保護者の面談同席について

Q. 家族が同席する面談とはどのようなものか。そこまでする必要はあるか。

A. 実習評価にかかわる部分では、保証人である保護者に来校してもらうこともある。また、学生自身がしっかりと保護者に伝えられない面もある。学生の都合不都合で情報が歪曲しないように保護者に来校してもらっている。

- 学生の様子について

学生にとっては、継続的な学習が難しいことは感じている。試験や実習に向けて学習する時はするが、終わると勉強しなくなることはあるように思う。国家試験に向けた勉強をしなくてはいけないことは、学生自身もわかっているのではないかと思うが、その一方で、学生自身、今に精一杯な面もあるのではないかと思う。

- 他国籍の対応について

Q. 母国語が日本語ではない学生が増えている。これまで国語の試験が難しかったため、入学には至らなかったと考えるが、今後はどう考えているか。

A. 実際に学校への問い合わせはあるが、応募までには至っていない。今後入学する可能性はあると考える。

### 4) 入学生確保

#### 【報告概要】

- ・ 広報の強化については、ホームページ閲覧数増加の工夫、学生の学校生活や演習での様子を SNS で発信し、受験生が関心をもてるよう工夫している。
- ・ 高等学校の教員を対象に説明会を行い、情報共有を行った。
- ・ 一般選抜試験を3回実施、応募者増につながっている。自己推薦選抜、学科目を国語と面談のみに変更している。

#### 【意見交換内容】

- 学生確保について

オープンキャンパスに数回、参加した。その中で感じたのが学生の言葉に重みがある。それが学校教育を表していると考え。看護は高校生に理解しにくい職業であり、待っていても難しい面があると考え。

夏休みに1、2年生を出身高校に送り出して、進路指導の教員に学校の状況を知らせてもらうことも一つの案としてどうだろうか。どんな学びを積み上げているか教員は知りたいのではないか。

- 入学者数について

Q. 少子化進行中で、学校は確実に淘汰される。応募者数が減っていないのは良いことだが、一方でなぜ入学者は少ないのか。

A. 国語と面接の試験の中で、必要な国語力や看護職として必要となるコミュニケーション力を見ている。特に面接では、看護職として働きたいという強い意志を持って3年間頑張れる学生かという点を見た。中には周囲に勧められたなどで、具体的に看護師の仕事のイメージができていない受験生もいる。複数の面接官で相談し、合否を決定した。

中には、複数回受験する受験生もいた。試験結果を開示しているのでも、前回の課題を克服してきた受験生もいた。

返答をふまえて委員より、入口を絞るのではなく、間口を広く教育の力で育てていく方向性のほうが良いのではないかと。それを含めて3年間の成果が見えるとよいと提案があった。

## 5) 社会貢献・地域貢献

### 【報告概要】

- ・地域におけるボランティア活動は、自ら積極的に活動する力が生まれ、有益な活動であり、看護師を目指す上で大きな意味を持つが、学生の積極性には差がある。
- ・学校周辺の自治体や医療施設等との連携では、やまゆり祭や授業における老人クラブ連合会との連携を通じて、地域との交流が深まり、学生の学びにつながっている。

### 【意見交換内容】

- ボランティア活動の主体性について

Q. ボランティアは学生が自主的に参加し、自分の時間で行っているのか。

A. そうである。

- 福祉祭りやアレルギー児サマーキャンプについて

- ・福祉祭りについて

福祉祭りなどを通して、福祉の根本は何かと考えた。学生が来ることで変わったと老人会でも話が出ている。自分達が生きてきたあゆみの話をする機会があることが嬉しいことである。肯定的にわかってくれる環境が嬉しく、これからも交流を大切にしていきたい。

- ・アレルギー児サマーキャンプについて

アレルギー児サマーキャンプは大変なのでボランティアのリポート率は高くないのだが、この学校の学生はボランティアに来てくれており、現場で看護師になってからも来てくれていることに感謝している。

## 6) 全体についての意見

- 教育課程アンケートの自由意見欄は大切な意見で、今後課題として考えていく必要がある。
- 教員の努力が学生からも見えている。
- ユニフィケーションを3年間行い、効果があったと考える。学生が安心して実習ができる環境形成につながっている。学生が安心して学べるようにしていきたい。

令和7年度の全体評価として、学校運営は概ね問題なく実施できていると総括できると出席者の外部委員で確認し、議事を終了、閉会した。